

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	とらいきっずおん		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが「安心・安全な場である居場所」を感じながら楽しく通所できている	必ず、ミーティング等を通じて、職員間で情報を共有しあい子どもの状態に合わせて安定した支援が出来るよう工夫している	①心や身体が傷つかない環境②子ども自身が認められる環境③個別に配慮してくれる大人がいる環境④多様性を認めてくれる環境を整備していく
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部への情報発信が弱い	HPやブログを開設しているが、情報発信をする頻度が少ない状況になっている	定期的にSNS等を活用した情報発信をしていけるようにする
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名 とらいきっずおん

公表日 2025年3月31日

利用児童数 25名

回収数 10名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	0	0	1		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	0	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	0	0	3		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	0	0	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	0	0	0		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	0	0	2		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	3	3		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	0	1	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	1	2	1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	10	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	0	3	5		
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	1	0	0			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1	1	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	0	0	4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	0	0	4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	0	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	9	1	0	0		

公表	事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）
----	---------------------------

事業所名	とらいきっずおん				公表日	2025年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		適切であり、様々な集団活動を実施することが可能であるが、死角のある空間では職員が見守りを行い安全に過ごせるよう対応している	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		人員配置基準及び加算要件を満たしており、児童分野での経験と専門性を備えた人員配置に努めている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		物理的な環境を整備することだけでなく、誰にでも優しくわかりやすい環境を整備し対応している	一部バリアフリー化されていない箇所がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・サービス提供後、玩具などの活動で使用した道具類の消毒、室内清掃を行っている ・個室では、子どもたちのクールダウンの場や必要に応じて個別での対応ができる空間を設けている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○	○	個室がありこども達がクールダウン等ができて、安心、安全に過ごせる空間を設けている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務上で生じた課題については、全職員が参画した上で、PDCAサイクルの4つのステップを繰り返し、継続的な改善を目指している	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けの評価表を集計後、評価及び分析を行って業務改善に繋がるようにしている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングだけでなく日々の業務場面を通じて、意見を言いやすい環境作りを目指しており、些細な事であっても業務改善に繋がるようにしている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○	○		第三者による外部評価は実施していない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・積極的に外部研修へ参加し、その後、事業所内で伝達研修を実施している ・定期的に内部研修を実施している	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		全職員が参画して支援プログラムを作成し、事業所内に掲示及びホームページで公表を実施している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		こどもや保護者とラポール形成をしっかりと築いていくことを第一に考え、話しやすい雰囲気の中で聞き取りを行い、ニーズの分析・評価及び計画作成に繋がるようにしている	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に全職員が放課後等デイサービス計画の作成に関与するような仕組みを作り、こどもの最善の利益を追求した支援の検討を行っている	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書を児童記録と一緒に、日々すぐ見て確認出来るようにしている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツールだけでなく、医療機関等が作成した発達検査結果票、リハビリ計画や、学校が作成した教育支援計画等も参考に活用している	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援目標及び支援内容を検討する際には、常に人と環境の接点に着目した視点で支援内容を検討するように留意して実施している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童発達支援管理責任者、児童指導員らの視点から活動プログラムを立案している	事前に予定をたてるようにしていきたい

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎日、朝のミーティング内で、その日利用するこどもの特性及び課題に合わせた活動プログラムを立案できるように工夫している	事前に予定をたてられるようにしていきたい
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		毎日、必ず支援を実施するという部分は出来ないこともあるが、計画の立案は行い出来る限り実施出来る様に心がけている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		サービス提供前に職員間で話し合いを行い、休んでいる職員が居ても全職員が情報の把握・共有ができるよう心掛けている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		打ち合わせを行えなかった時には、翌日のミーティング内で振り返り等を実施している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録用紙の内容を工夫し5領域を鑑みた記録を記載出来る様にしており、モニタリングや計画の見直しの際に活用している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		標準的なモニタリング頻度（6か月に1回以上）で実施するだけでなく、ミーティングで支援内容の修正等が必要と判断された場合には、速やかにモニタリングを実施して、支援目標及び支援内容の見直しを実施している	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			まだ十分に組み合わせた支援を行えてはいないが、次年度は意識をした支援を実施していく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○		日常生活場面を通じて、自分のやりたいこと等を自分から職員に伝えたり、自己選択、自己決定する機会を設けるようにしている	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		子どもの状況を理解した者が中心に会議等へ参加するよう努めている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・医療機関とのやり取りについては、書面のみでのやり取りが中心となっている ・福祉、教育機関等とのやり取りについては、会議等を通じて、情報共有が図れるようにしている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との情報共有については、対面、電話、メール等の様々な方法を活用して情報共有を図り、問題が生じた際には速やかに介入出来る様に対応している	急な利用キャンセルが多い
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		直接、保育所等とやり取りをする場面は少ないが、保護者や相談支援専門員等を通じて情報共有を図っている	主体的、積極的に情報共有を図ることは出来ない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要があれば保護者や相談支援専門員等を通じて、情報提供出来るようにしている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターとは緊密に連携を図り、必要があれば助言等を受けている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			放課後等児童クラブや児童館のこどもたちと活動をともにする機会はほとんどない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会等を欠席することがあっても、事務局を通じて、検討議題に対する返答や話題提供等を行って対応している	日程が合わない為、参加する頻度は少ない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		出来る限り保護者の方々と接点を持てるように努め、送迎時や連絡ノートで伝えるように留意している	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		次年度、家族支援に対する内部研修や外部研修への参加を行って、スキルの習得、実施に向けた具体的な取り組みが行えるように検討する	・家族支援に関する知識及び技術は不足している ・家族支援プログラムの実施や家族等が参加できる研修の機会は行えていない
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		事務的な説明にならないよう留意し、わかりやすい説明を心がけている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者、相談員等と話し合いを設けている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画の内容については、事務的な説明にならないよう具体的にわかりやすく説明し、同意を得られるように対応している	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族等が些細な事であっても気軽に相談出来る様な関係性の構築に努めている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	きょうだい同士で交流する機会はないが、面談時、送迎時、計画立案時には、きょうだいを含めた支援方法を意識した対応を実施している	保護者会等の実施には至っていない
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・苦情・相談対応マニュアルに沿って対応を行っており、苦情解決責任者を中心に迅速かつ適切に対応するよう努めている ・苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し契約時に説明を実施している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	HPでブログを開設して外部へ発信出来る様に取り組んでいるが、更新頻度は少ない状況である為、その際は、連絡ノートや送迎時等の場面を通じて、情報発信するよう努めている	ブログの更新頻度が少ない(年2回程度)
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報に記載された書類については、鍵付きのキャビネットにて保管している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・必要に応じて絵カードや文字、ジェスチャーやサインなどで情報伝達を行っている ・教育機関での対応方法を確認し、配慮や支援で活用している	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		主体的な取り組みは実施できていない
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルについて、職員会議にて対応方法をなどの確認を行い、安全計画の中で研修や訓練を計画し実施している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		次年度、BCPに沿った研修・訓練を実施する	BCPの職員への周知を図っていく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始の際、健康状況票を保護者の方に記入して頂き確認をしている	利用開始後も、受診や服薬の状況を確認する等して保護者と情報共有を図っている
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者を通してアレルギーの原因物質に関する情報を提供を頂き、おやつ提供時に配慮を行っている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練などを統括管理している	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			保護者に対する周知が不足している為、より分かりやすい周知方法を検討する
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		危険な事例があった場合は、報告書に記載し、ミーティングを通して職員間で情報共有と対策の検討を実施している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止のための内部研修の実施及び外部研修への参加などを実施している	日頃から支援内容の振り返り等を行って、職員の意識向上を進めていく
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束適正化委員会を設置し、身体拘束の必要性などを検討する場を設けている		